

仙台青年

SENDAI YMCA NEWS



「困難な時にこそ ポジティブネットのある 豊かな社会を目指そう」

仙台YMCA会長 菅野 健

2020年度は、日本はもとより世界的にも新型コロナウイルス感染に翻弄された一年でした。仙台YMCA全体を通していても、学校法人では専門学校及び健康教育事業並びに生涯教育事業の活動停止を強いられ、事業運営に大きな影響を及ぼしました。さらにNPO法人でも小学校休業措置により、不要不急の外出自粛を求められた小学生を対象としたアフタースクール事業及び放課後等デイサービス並びに児童館・放課後児童クラブも同様に厳しい運営状況となりました。

一方で、幼稚園事業及び保育園事業並びに児童館・放課後児童クラブの運営は、市民生活に欠かすことのできないエッセンシャルワーカーとして多くの人々の生活と命を守る働きを支え、感染防止を最優先しながら事業を継続できたことは「仙台YMCAの使命」を実現する働きをさらに強めることになりました。

公益財団法人においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、毎年実施してきた仙台YMCAバザー、仙台YMCAインターナショナル・チャリティーラン2020が中止となりましたが、職員が中心となり施設ごとにミニバザーを実施し、チャリティーランはマスクとTシャツ、タオルを制作し販売するとともに、チャリティーランの趣旨の説明や支援へのご協力を併せて行うことにより、それぞれの支援先である放課後等デイサービスY M C Aみらい・YMCAきぼう、フリッパークラブ、YMCAコミュニティスクールへの支援もさせていただくことになりました。国際地域協力募金については、メンバーや会員の皆様に募金のご協力をお願いするとともに、中止となった街頭募金に変わる新しい募金のあり方を模索した結果、近隣の店舗に募金箱を設置していただくなど地域の方々と新しい関係性を築ききっかけにもなりました。また、チャリティゴルフは参加者を宮城県の方に限定しての開催、仙台YMCAクリスマスは、規模を縮小し仙台YMCA立町会館にて、専門学校の留学生を対象に、クリスマスプレゼントの贈呈と3密にならない交流プログラムで交わるなど、新しい仙台YMCAの特別プログラムの形を模索しチャレンジした一年となりました。

2021年3月11日石巻栄光協会・YMCA石巻センターを会場に「3・11記念礼拝と追悼の集い」が開催され、14時46分に10回の点鐘とともに震災で亡くなられた方を想い黙祷を捧げました。東日本大震災から10年が経ちました。津波で大きな被害を受けたところは今ではすっかりきれいになり公園や新しい商業施設が建設されるなど一見すれば復興が進んでいるように見えます。しかし、以前住んでいた環境とは全く違い、町は綺麗になったが住めない町になってしまったという声も聞かれます。建物を新しくすることはできても、失った物や人を元に戻すことはできません。福島第一原発の避難区域では4万人を超える方々がいまでも故郷に戻ることはできません。東京電力ホールディングスの廃炉に向けたロードマップでは、廃炉までに30年から40年ほど掛かる見通しとなっています。その時に戻れる人々はどれほどいるのでしょうか。

私たち仙台YMCAの使命に基づいた活動に終わりはありません。年を追うごとに災害の規模は甚大になり、併せて未知のウイルスにも対応していかなければなりません。このような時代だからこそ、人と人の繋がり、地域の繋がりはますます重要になります。YMCAはポジティブネットある豊かな社会の実現を目指しています。セーフティーネットから零れ落ちそうな人を見つけ、繋げ、よくなっていくように寄り添い支援を絶やさないように歩みを更に強めていきます。今年度も引き続き、皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

私たちは聖書によって、「神は耐えられないような試練には遭わせることはなさない」と教えられております。1日も早く平和な暮らしを取り戻すことが出来ますようお祈り申し上げます。



菅野 健会長

2021年度スタート 仙台YMCA4法人理事長からメッセージ

「YMCAの総合力を発揮して」

学校法人仙台YMCA学園 理事長 清水 弘一



あの東日本大震災から3月11日で10年が経ちました。仙台での桜の開花宣言は平年より14日も早く、新型コロナの感染拡大の収束が見えない中でも私たちに自然の恵みを与え、励まし元気づけてくれています。

昨年度は4月に入ってまもなく新型コロナの緊急事態宣言が発せられ、国際ホテル製菓専門学校、幼稚園、健康教育事業の行事にも大きな影響がありました。様々なプログラムが中止になったり規模を縮小したり、ホテル製菓専門学校では授業が一時リモートで行われました。教職員のさまざまな工夫と学生や子どもたち、そして保護者の皆さまのご協力があって乗り切ってまいりました。3月には幼稚園児33名の卒園式がご家族2名までの制限の中で成長した姿をご家族に見守られながら卒園されました。また、ホテル製菓専門学校の卒業式では、3カ国の留学生10名を含めて24名の学生がたくましくなって社会に巣立って行きました。留学生10名は民族衣装で参列し国際色豊かな卒業式となりました。

新年度は新型コロナウイルス禍が長期化する中でのスタートとなりますが、「幼稚園」「専門学校」「健康教育事業部」「生涯教育事業部」の4部門ともコロナ禍の中にあっても、昨年と同様に日々工夫を凝らしながらYMCAの総合力を発揮してこの困難な時期に立ち向かってまいります。各部門ともキリスト教の理解を深め、更なる人材の確保と育成を強化しながらプログラムの見直しや開発に力を注ぎます。専門学校ではYMCAでしかできないカリキュラムで社会が求める能力のある学生、「人の感情に心から共感し、態度で示せる人材」をこれからも育ててまいります。

私たちを取り巻く社会環境は大きな流動化の渦中にあり、さまざまな困難が待ち受けているかと思いますが、私たちはYMCAのスローガンである「みつかる。つながる。よくなっていく。」を目指して今年度も進んでまいります。今年度もYMCAに連なる学生や子どもたちが安全で過ごすことができますよう、そして皆さまのご健康を心からお祈り申し上げます。

「園児の安全と保護者の安心」

社会福祉法人 仙台YMCA福祉会 理事長 工藤 正剛



法人設立から23年を迎え、4つの保育園で390名余りの園児をお預かりし、周辺児童の減少を始め過去に経験のない社会変容の下、地域社会に豊かなコミュニティが広がるよう取り組んでおります。新型コロナウイルス感染症蔓延の状況の下、細心の注意をもって園児に接しております。3月、各園で卒園式を執り行いましたが、昨年同様いずれの園も、子どもたちと親御さんたちだけの参加となり少々寂しいものでした。

4月現在、4園共、昨年度同様に職員体制が不十分なため、私たちの願う園児数受け入れが困難な状況に変化はございません。職員の募集には皆様の一層のご協力をお願いいたします。今年度も、設立母体である仙台YMCAの願いを土台とし、現代社会が抱える課題に取り組み、将来を担う子どもたちに、よりよい環境を提供し続けてまいります。そして一人ひとりが、平和な社会の実現を目指しYMCAの理解を深め、「やさしさ」、「誠実さ」、「尊敬する心」、「責任感」を子どもたち、そして社会に伝えると共に、保護者の安心と園児の安全を確保しつつ神様から託された大切な子どもたちを「YMCAの願い」の下に職員一同、心を込めて育てて参ります。

「将来を見据え、変化にチャレンジを」

仙台YMCA総主事
NPO法人仙台YMCA ファミリーセンター理事長
村井 伸夫

2021年度、仙台YMCAは創立116年目を迎えました。この間、今日に至るまで、多くの困難に直面しながらも、御主の導きの中で先達の英知と献身によって活動が継続されてきたことは感謝の念に堪えません。

仙台YMCAの直近10年においては、2010年度の限界を迎えた財政危機、その中で東日本大震災被災危機、さらに公益法人制度改革に伴う事業再編危機を経て、2014年4月より公益財団法人、学校法人、社会福祉法人、特定非営利活動法人の設置4法人運営によって、1905年の設立理念を守り、1985年に定めた「仙台YMCAの使命」を遵守した活動を続けてまいりました。そして、今日、日本社会の大きな変化といえる人口減少、少子高齢化、格差社会と貧困家庭の顕在化、脱炭素社会と自然再生エネルギーへの転換等に加え新型コロナウイルス感染拡大のただ中で、今までの生活様式から個人生活の見直しと変容が求められるとともに、リモート社会、在宅勤務、密接を避けることなど他者との接触を制限されることが当たり前の社会を迎えています。

将来を見据えることが困難な状況にあって、仙台YMCAは迎えた2021年度において、各法人事業の将来構想策定に着手いたします。社会変化にあって、今日まで続けてきた事業の5年後から先を見越した仮説を作成するとともに、新しい社会の中で求められる事業を創造することを始めます。これまで辿ってきた10年を評価し、いつの時代であっても必要とされる事業、社会変化に対応し仙台YMCA自ら変化にチャレンジする事業を明らかにすることを求めたものとなります。また、これまでも進めてきました幼稚園型認定子ども園から幼保連携型認定子ども園への移行、保育園の保育園型認定子ども園への移行、ここ数年にわたり増えてきた外国人留学生の専門学校入学への取り組みの強化、健康的な高齢者を対象とした健康増進プログラムの開発等々にも力を注いでまいります。引き続き、みなさまからのご理解とご協力、ご支援をお願い申し上げます。



「2021年度 入職式・辞令交付式」 が行われました

3月27日午前10時から仙台YMCA立町会館4Fホールにおいて、2021年度仙台YMCA入職式が行われました。今年度も新型コロナウイルス感染予防に努めながら、辞令交付対象者の中から人数を限定しての開催となりました。式では礼拝の奨励を日本ナザレン教団仙台富沢教会の阿部頌栄牧師からいただき、新入職員への励ましの言葉を仙台YMCA会長の菅野健さんから頂戴いたしました。その後は、新入生代表の言葉をNPO法人採用の熊谷汐華さん、迎える言葉をYMCA加茂保育園の岩根久仁恵さんから送られ入職式は終了となりました。

（本部事務局小幡忠弘）

仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわざを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。
喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおし、共に成長できる生き方をすすめます。

世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に拡げます。

私たちは、人と人とのかかわりを豊かに育み、隣人に仕えあう喜びの輪を拡げます。

子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

第26回 仙台YMCA インターナショナル・チャリティーラン2020

実行委員会より

グッズご購入
ありがとうございました！！



「第26回仙台YMCAインターナショナル・チャリティーラン2020」につきましては、当初、開催へ向け検討を重ねてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況、並びに参加者の皆様、スタッフ、ボランティアの方々、コースにて応援される皆様の健康と安全を最優先に考えた結果、苦渋の決断ではありますが、参集型の大会を開催することは困難であると判断いたしました。

しかしながら、障がいのある子どもたちを支援するとともに、障がいへの社会的な理解と関心を高めるといったチャリティーランの趣旨・願いについては、「チャリティーラングッズ」を制作販売し、その収益で障がいのある子供たちへの継続的な支援を行っていくことといたしました。

皆様の広範なご理解の下、マスク・マスクケース、Tシャツ、タオルのグッズ販売を通じ30万円弱の収益を得ることができ、障害のある子どもたちへの支援が実現できましたことをこの紙面をお借りし報告いたしますとともに、皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

実行委員長 多田 修

写真のモデルは、実行委員会の佐々木理英さんと土橋敬太さん。掲載用の写真撮影を快く引き受けてくださいました。二人が着用しているTシャツやタオルは今回販売されたものです。次々に繰り出されるユニークなポーズに、笑いの絶えない写真撮影でした。ご協力ありがとうございました！

仙台YMCA 2021年度年間聖句

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」

～ ヨハネによる福音書 第13章 34節 ～

(3月1日～4月13日)

維持会費

皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

◆一般会員

・維持会員 A会員/10,000円、B会員/20,000円、C会員/30,000円

A会員 千葉 睦雄 さん 村田 洋子 さん
油谷 重雄 さん 坂本 満 さん

一般会員・サポート会員を 随時募集中です

ぜひ会員として、
仙台YMCAの活動をお支えください

お問い合わせ：本部事務局

TEL:022-222-7634
FAX:022-222-2952